

生きて働く「国語の能力」を培う国語科授業の創造

中 熊 豊 仁 [鹿児島大学教育学部附属小学校] ・ 中 野 晶 仁 [鹿児島大学教育学部附属小学校]
下 戸 勇 介 [鹿児島大学教育学部附属小学校]

A Japanese language class designed to put to practical use acquired Japanese language ability

NAKAKUMA Toyohito ・ NAKANO Akihito ・ SAGEDO Yusuke

キーワード：つなぐ、言語活動、学習課題、ひとみ学習、直観

1 はじめに

本校は、開研究会等において、本件教育の指針となる使命を負っている。そのため、様々な場面で、教科教育の在り方について研究を深めていく必要がある。本年度は、昨年度に引き続き、「生きて働く『国語の能力』を培う国語科授業の創造」というテーマの下、本県の課題を踏まえてどのような授業を展開していけばよいのかを模索し、研究してきた。以下に、その実践をまとめる。

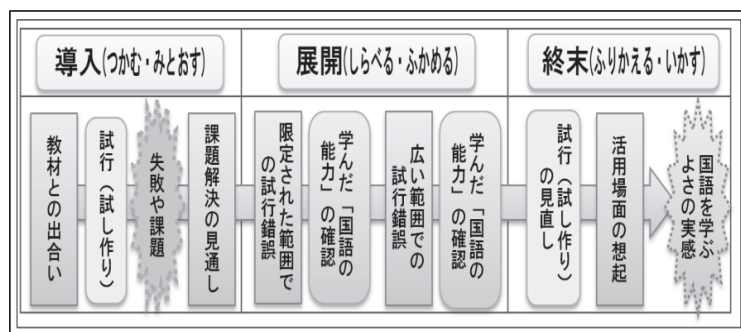
2 研究の背景

本校においてはこれまで、目指す子ども像を「自分の思いをもち、伝え合うよさを実感する子ども」と設定し、ことばによって自ら考えを深める国語科学習指導について研究してきた。その結果、自分の思いをもち、互いに伝え合うよさを実感できる子どもを育成することができた。しかし、これまで以上に国語科の学習に対する興味・関心を高めたり、国語を学習するよさを十分に実感させたりすることで、「国語の能力」をさらに高めることができるのではないかと考えた。そこで、生きて働く「国語の能力」を培う国語科授業に迫るために、次の二つの視点で研究を進め、具体的な授業作りを行うようにした。

- 単元における視点 一単位時間における視点

(1) 単元における視点

これまで、子どもたちは「国語の能力」を学ぶ際に、他教科等の学習内容や日常生活の事象との関連を十分意識できていなかったために、国語を学ぶよさを味わうことが難しかった。そこで、教師は授業を構想する際、図1のように、「試行（試し作り）」「学んだ『国語の能力』の確認」「活用場面の想起」の流れの学習過程で指



【 図1 生きて働く「国語の能力」を培う学習過程 】



【ひとりで】



【ともだちと】



【みんなで】

導を行うこととした。そうすることで、子どもたちは、国語の学びのよさを実感し、生きて働く「国語の能力」を培うことにつながると考えた。

(2) 一単位時間における視点

これまで、子どもたちは、友達と学び合いでの学習を進め、活発な話し合い活動を行いながら課題解決を行ってきた。しかし、授業が学級集団による共通課題の解決に終始し、個人にとっての課題解決に至らず、その結果、個人にとって実のある学びになっていなかったと考えられる。そこで、これまで行ってきた学び合いである「ひとみ学習」の特性を生かし、さらに効果的に運用することができないかと考えた。

ア ひとみ学習とは

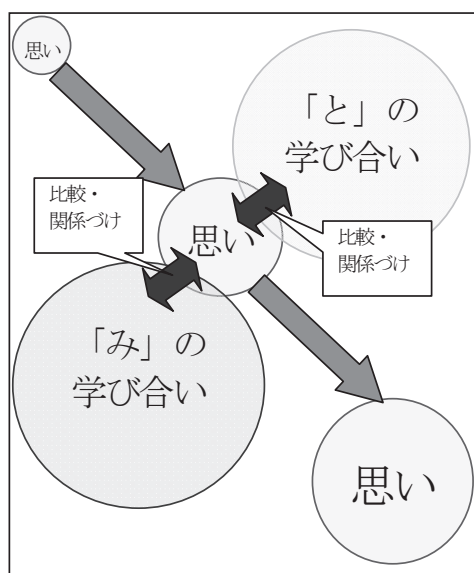
「ひとみ学習」とは、個人での学び（「ひとりで」）、相手との一対一での学び（「ともだちと」）、集団での学び（「みんなで」）を、一単位時間の中に配した主に学習形態にかかわる学習指導のことである（表1）

イ 「ひとみ学習」で一人一人の思いや考えを往還させる学習指導

「ひとみ学習」で一人一人の思いを往還させる学習指導とは、図2のように、「ひとみ学習」の各形態での学びに混在する「学び合い」の中から、ねらいに即して教師が取捨選択し、その学び合いの間で子どもの思いを往ったり還ったりさせながら、自分の思いを他者の思いと比較、関係付けさせ、深化・拡充させる学習指導のことである。

【表1 ひとみ学習】

ひとりで	じっくりと個人で学習に取り組み、自分の思いをもったり、相手と思いを伝え合った後に練り直したりする。
ともだちと	相手と一対一で向き合い、相手の思いを聞いたり、自分の思いを伝えたりすることで、自分の思いを客観的に見つめ直したり、相手の意を汲み自分の思いを伝える能力自体を獲得したりする。
みんなで	グループや学級全体などの集団の中で、複数の相手の思いを聞いたり、思いを伝えたりすることで、自分の思いの質を複数の視点で高めたり、複数の相手に効果的・合理的に伝える能力を獲得したりする。



【図2 ひとみ学習の概略】

3 鹿児島県の課題とその要因

生きて働く「国語の能力」を培う国語科授業を創造するために、鹿児島県の国語科教育の現状を把握することにした。各種調査の結果や県内の研究団で取り上げられている話題等を基に、鹿児島県における国語科授業の課題とその要因を、以下のように分析した。

(1) 子どもの姿から

鹿児島学習定着度調査の思考・表現に関する問題の通過率は約4割であることや、全国学力テストの活用問題の正答率は全国平均並もしくは平均以下であることが課題である。この要因としては、国語科で重視されている言語活動の活用意義や活用方法が十分に理解されず、思考力・判断力・表現力や知識・技能などの国語の能力を身に付けるための言語活動となり得ていない場合があることが考えられる。

(2) 学習指導の面から

基礎的・基本的な知識や技能の習得が意識されたり、言語活動が位置付けられたりして、一定のレベルまで学力を高めていく授業ではあるが、思考力・判断力・表現力等を駆使する授業になりきれていないことが課題である。この要因として、教師の指導の意図に基づいて細分化された発問に、子どもが一つ一つ答えていく授業となり、子ども自身が課題を見出してその解決にあたりたり、子ども同士が活発に思考を働かせながら学び合ったりするような働きかけが十分ではない場合があることが考えられる。

4 授業のポイント

「生きて働く『国語の能力』を培う国語科授業の創造」というテーマの下、本県の課題とその要因を踏まえて、大きく以下の二つを授業のポイントとして設定した。

ポイント1 思いや考えをつなぐための単元の導入における学習課題の設定

- 国語の能力と結びついた子どもの問いが生まれるような言語活動を設定するために、単元で身に付ける「思考力・判断力・表現力」や「知識・技能」などの国語の能力を、教材の内容価値と形式価値との関係から明確にする。
- 単元全体を通して解決していく学習課題を明確にするために、単元の導入における言語活動の試行で感じたり考えたりした問いを、単元で身に付ける国語の能力の視点で整理する。

ポイント2 思いや考えを「ひとみ学習」でつなぐ一単位時間における教師の働きかけ

- 国語の能力を適用しながら活発に思考し、思いや考えを深めたり広げたりするために、学び合いとして「ひとみ学習」(ひと)と(み)と(り)で、(ど)も(だ)ちと、(み)んなでの学習)を行わせ、子どもの思いや考えを「自分」、「既習」・「他者」・「教材」とつなぐ。
- 思考を活発にするための子ども自身の問いを基にみんなで立てる学習課題に対する直感の思いや考えを明確にもたせるために、既習の国語の能力や教材とつなぐ。

5 思いや考えをつなぐための単元の導入における学習課題の設定

(1) 思いや考えをつなぐための単元の導入における学習課題の設定の基本的な考え方

一単位時間ごとの思いや考えの出発点は、単元の導入にある。その導入の最初の思いや考えが、一単位時間ごとの思いや考えを支えたとともに、単元全体をとおしてつながり、単元の終末へ向けて深まったり広がったりする。この深まりや広がり、子どもの活発な思考によって得られるものであり、そのような思考のため

には、単元の導入における子ども自身の明確な問いが重要であると考えた。

そこで、私たちは、図1に示した学習過程を次のように見直した。まず、単元の導入に言語活動を設定してその試行をさせ、そこで子どもが感じたり考えたりした問いを基に、単元全体で解決する言語活動に関する学習課題を設定するようにした。そして、教材での学習を、言語活動に関する学習課題を新たな国語の能力を学びながら解決するための手段として位置付けた。このような学習課題の設定に至るまでに、次の手順を踏む。

- ① 単元で重点的に身に付けさせたい思考・判断・表現、知識・技能などの国語の能力を教材の内容価値や形式価値との関係から明確にする。
- ② 子ども自身に、単元で身に付けさせたい国語の能力と結び付いた問いが生まれるような言語活動かどうか、身に付けてきた国語の能力や身に付けようとする国語の能力を意識して発揮できる言語活動かどうかを吟味する。
- ③ 言語活動の試行における問いを想定し、身に付ける国語の能力の視点で問いを整理する。
- ④ 整理した問いを基にした学習課題を想定する。

ただし、「読むこと」の領域では、言語活動で子どもがもつ問いと領域において身に付ける国語の能力が全て一致するわけではない。よって、言語活動で子どもがもつ問いと単元で身に付ける国語の能力に関する問いを整理し、単元全体で解決する学習課題と教材の読み取りにおける学習課題の二段階の学習課題を設定する必要がある。


(2) 思いや考えをつなぐための単元の導入における設定の具体例

【段落どうしの関係をとらえ、説明のしかたについて考えよう 教材「アップとルーズで伝える」「リーフレットを作ろう」4年(中下)】

導入
(つかむ・みとおす)

言語活動の試行と【単元全体で解決する学習課題】の設定

運動会学年種目のリーフレットを作ろう(試行)



C: 文章と写真が合っていない。

C: 2枚の写真の違いを考えて書いた方がいいのか。

C: 2枚の写真には、どんな違いがあるの。

C: 書く内容がはっきりしない。

【単元全体で解決する学習課題】2枚の写真について説明する文章を分かりやすく書くには、どのようなことが大切なのか。

単元全体で解決する学習課題を解決するための教材の読み取りにおける学習課題の設定

「アップとルーズで伝える」を読んで解決しよう

C: どんな書き方をしているのかな。

C: アップとルーズのちがいはなんだろう。

C: 身に付ける力は、「段落どうしの関係をとらえる」ということだね。どんな関係になっているのかな。

C: 筆者の書いている問いは何だろう。つなぎ言葉を探すといいよ。

【読み取りにおける学習課題】アップとルーズのちがいはどんなことであり、どのように説明されているのか。

身に付ける「国語の能力」

- ◎ 2枚の写真の説明を比較し、形式の共通点や内容の相違点を明確にする。
【思考力・判断力・表現力】
- ◎ 段落同士の関係(対比)をとらえる。
・つなぎ言葉・まとめる言葉
【知識・技能】

教材の内容・形式価値

- ・ アップとルーズという資料の示し方の違いの意図について説明されている。(内容価値)
- ・ アップとルーズの2枚の写真について、つなぎ言葉やまとめる言葉を使いながら対比的に説明している。(形式価値)

言語活動の内容と様式

- ◎内容
運動会学年種目のこつを、アップとルーズの2枚の写真を使って、それぞれにふさわしい内容で説明する。
- ◎様式 リーフレット
- ◎相手・目的意識
該当する種目を行う学年の友達へ向けて、運動会練習で生かしてもらうために作成する。

【表2 子どもの思いや考えを広げたり深めたりするための教師の働きかけ】

つなぐ働きかけ		内容
自分	問いをもとに課題を設定する	・自分自身が解決したい問いの呼びかけ
自分	学習のプロセスや変容を問う	・学びの振り返り（国語の能力・友達との学び・思考方法）
既習	身に付ける「国語の能力」を問う	・適用した「国語の能力」
既習	直感の思いや考えをもたせる	・前時までの思いや考えをもとに、どう考えるのか・経験
他者	思いや考え、根拠理由をつまづる	・同じ思いや考え ・異なる思いや考え ・同じ根拠理由 ・異なる根拠理由
他者	価値を付ける	・思いや考えのよさを認める ・根拠理由のよさを認める
教材	根拠理由を問う	・足りない部分を引き出す ・曖昧な根拠理由を明確化する
教材	思いや考えのずれを起こす	・反証を促す教材の提示や発問

6 思いや考えを「ひとみ学習」でつなぐための一単位時間における教師の働きかけ

子どもが活発に思考し、思考力・判断力・表現力を高めていくには、まず、全ての子どもが自分の思いや考え及びその理由を「**ひ**とりで」明確にもつことが大切である。そして、その思いや考えを、「**ど**もたち」や「**みんな**」との学び合いの中で表出し合うことで、お互いの思いや考えを基に判断して深めたり広げたりしていくことができると考えた。そこで、私たちは、この学び合いを「ひとみ学習」として授業の中に位置付け、表2のような働きかけをとおして、教師が子どもの思いや考えを「自分」、「既習」・「他者」・「教材」とつなぎ、思いや考えをより深めたり広げたりすることを目指した。

そして、これまでの研究や実践をとおして、思いや考えの出発点である導入の「**ひ**とりで」における問いや、みんなで立てる課題に対する直感の思いや考えを書かせ、可視化させることが特に重要であると考えた。なぜなら、一人一人の子どもが自分なりの問いや、思いや考えを明確にもって初めて、友達の違いや考えとの比較・関係付けを行うことができるからである。また、この直感の思いや考えから生まれる自他の思いや考えのずれが、活発な思考を生み出すことになる。さらに、直感の思いや考えと最終的な考えとの比較により、自身の思いや考えの変容や思考のプロセスを確かめることができる。

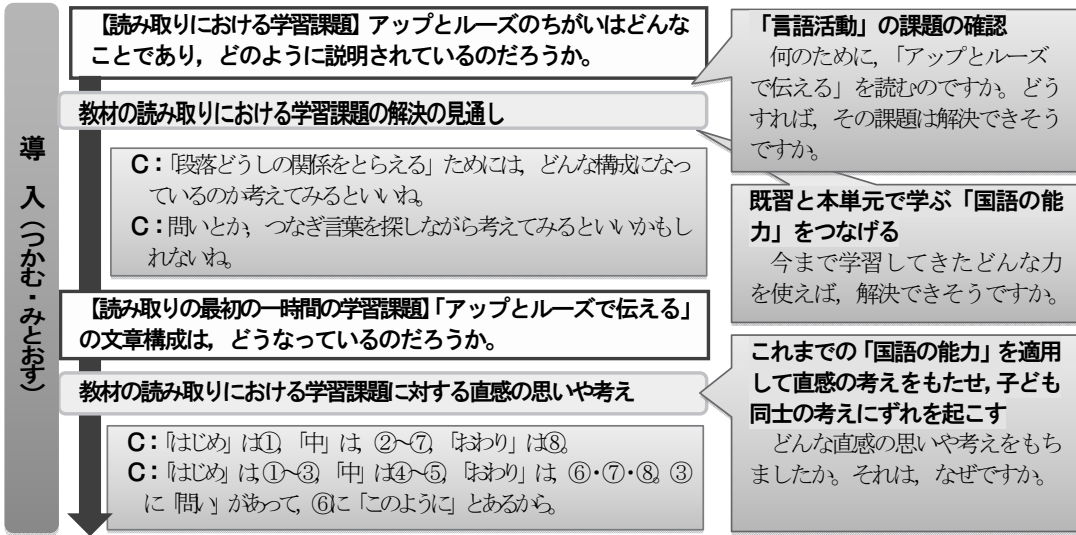
そこで、一単位時間において【表2】のような働きかけを行いつつ、特に導入においては、【表3】のような働きかけを行うこととした。なお、領域や教材によって、働きかけの順序は変わる。

【表3 一単位時間の導入における働きかけ】

- ① 教材で学習する目的や単元で身に付ける国語の能力を明確にするために、言語活動についての自分たちの学習課題や単元名を確認する。
- ② 既習の国語の能力を適用することで解決できないかを問うことにより、既習とつなぎ、学習課題の解決の見通しをもたせたり、その方法を考えさせたりする。
- ③ 見通しをもとに子どもたち自身が一単位時間の学習課題を立てさせ、自分のもつ国語の能力を適用して考えた直感の思いや考えを明確にさせる。

(2) 思いや考えを「ひとみ学習」でつなぐための一単位時間における教師の働きかけの具体例

段落どうしの関係をとらえ、説明のしかたを考えて考えよう 教材「アップとルーズで伝える」[リーフレットを作ろう] 4年(中下)



7 授業実践

(1) 実践

第2学年 国語科学習指導案

に組 男子18名 女子17名 計35名

指導者 下戸 勇介

1 単元 お話を読んで、かんそうを書こう（教材「スイミー」2年光村上）

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、第1学年の「すきなところをさがしてよもう」で、場面の様子について登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む能力を身に付けている。また、第2学年の「おはなしを音読しよう」の学習で、登場人物の行動や会話を基に動作や役割を考え、互いのよいところを伝え合いながら楽しく音読しようとする態度を身に付けている。さらに、自分が読んだ物語のおもしろいところ、気に入ったところの感想を相手に分かるように伝えたいという願いをもっている。

そこで、本単元では、**場面の様子について登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む能力を高めると共に、物語を読んで気に入った部分を書き抜き、その理由を感想としてまとめようとする態度を身に付けさせたい**と考え、単元「お話をよんで、かんそうを書こう」（教材「スイミー」）を設定した。

この学習は、場面ごとに、出来事や人物の気持ちを考えながら丁寧に読み、心を打たれた場面を中心に感想文を書く第3学年の「場面のうつりかわりとらえ、感想をまとめよう」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「スイミー」は、主人公スイミーが、兄弟を失った悲しみを乗り越え、知恵と勇気を発揮してリーダー的な役割を果たしながら仲間と力を合わせて大きな魚を追い出し、平和な暮らしを取り戻す物語である。子どもたちは、主人公に名前がある教材で学習するのは初めてであり、主人公に寄り添いながら読み進めることができると考える。また、スイミーの行動は、徐々に友達のかかわりを大切にするようになってきているこの期の子どもたちの共感を得やすい教材である。さらに、スイミーの行動によって場面が展開していく構成や、体言止めや倒置法、比喩表現などの表現の工夫によって物語は生き生きと描かれており、子どもたちが想像を広げて読みやすい教材である。

そこで、本単元では、教材「スイミー」の作者レオ＝レオニの作品の中から読みたい物語を選んで並行読書し、感想を書くことを単元の言語活動として設定する。そして、「スイミー」を、登場人物の行動や会話に着目しながら想像を広げて読み、場面ごとに感想をもちながら読み進める。

具体的には、まず、物語を読んで感想を書くことについての課題意識をもたせるために、試し作りとして教材「スイミー」についての感想カードを作成させ、うまくいったことやいかなかったことを友達と交流しながら整理させる。そして、見いだした課題の解決方法を考えさせ、単元の目標を設定する。また、「スイミー」以外のレオ＝レオニ作品の並行読書を始めさせる。

次に、教材「スイミー」を場面ごとに読み、登場人物の行動や会話などから、海の中の様子や登場人物の気持ちを想像させる。その際、**なぜそのように考えたのかを、行動や会話などの叙述を基に説明できるようにする**。また、表現の工夫へも着目させ、登場人物の行動を中心とした場面の様子について想像を広げさせる。

さらに、「スイミー」を読んだ後、見直しの感想カードを書かせ、試し作りの文章と比較させて、変容やその理由に気付かせ、身に付けた国語の能力の価値を実感させる。また、自分の選んだ物語についての感想を書かせる。そして、これらの感想カードを友達と比較させることで、感じ方の違いに気付かせ、自分の考えを深化・拡充するとともに学び合う喜びを共有させる。

これらの学習によって得られる能力や態度は、物語を読む際に自分の思いを表現する能力や、友達と学び合うことの楽しさを味わったりすると共に、学んだ国語の能力を実生活で生かしていこうとする態度へと結び付いていくものである。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本単元の学習や本教材に対して、どのような興味や関心をもっているかを調査した結果は、次のとおりである。(数字は、人数を表す)

① 初発の感想	
・ みんなで大きな魚を追わせてよかった (13)	・ スイミーは勇気があってすごい (5)
・ とてもおもしろかった (4)	・ スイミーがかっこいい (4)
・ 兄弟が食べられたけど、まだかくれていたからよかった (4)	
・ 大きな魚になったからびっくりした (3)	・ 一人ぼっちになってかわいそう (2)
② 「スイミー」の内容の読み取り	
・ みんなで力を合わせて大きな魚を追いはらった話 (19)	・ 兄弟が食べられる悲しい話 (3)
・ スイミーがいろいろ考える話 (3)	・ スイミーが早く泳ぐ (3)
・ その他 (7)	
③ 表現の工夫についての気付き	
・ 比喩表現の工夫 (25)	・ 体言止めの工夫 (10)
	・ 倒置法の工夫 (7)
④ 難語句 ※ 複数回答	
・ からす貝 (4)	・ ブルドーザー (2)
・ ミサイル (1)	・ もちば (1)
⑤ レオ＝レオニ作品の読書経験(「スイミー」以外)	
・ ある (2)	・ ない (33)

半数以上のこどもが、スイミーが協力して大きな魚が追い出せたことやスイミーの知恵や勇気に対して肯定的な感想をもつ一方で、物語の最初の部分のみへの感想や理由の明確でない感想をもつこどももいる。(①) また、内容理解についても、初発の感想と同様の割合で、物語の大体を説明している子どもと物語の一部に関する説明にとどまる子どもに分かれる。(②) このことは、限られた場面の様子については理解できているものの、登場人物の行動を中心として場面ごとの様子やその変化を十分にとらえながら読むことができていない子が一定数いることを示している。よって、スイミーの行動や会話に着目させ、場面ごとにスイミーの言動の意味や気持ちを想像させながら読ませていくことが必要である。また、想像を広げさせるために着目させる**表現の工夫**については、**比喩表現**についてはその効果を感じることができているが、**体言止め**や**倒置法**に関する効果についてはあまり感じられていない(③)。よって、**表現の違いにより何が変わるのか、十分に感じたり考えさせたりするようにしたい**。語句については、抵抗を感じている言葉は少ないものと考えられる(④)。レオ＝レオニ作品の読書経験は少ないため、関連する本の並行読書を通して、興味・関心を高めるとともに、作品のよさやおもしろさを十分に感じられるようにしたい(⑤)。

(4) 指導上の留意点

以上のことから、指導に当たっては、登場人物の会話や行動に着目させて、登場人物の気持ちや場面の様子について十分想像を広げさせ、感想やその理由をもたせることが大切である。

ア 海の中の様子や、スイミーの行動や気持ち、魚たちの様子について十分に想像させるために、挿絵を用いた構造的な板書をしたり、ペープサートを使った動作化を行わせたりして、スイミーに寄り添ってその行動の意味や気持ちを考えることができるようにする。また、スイミーの行動を中心として物語を読み進めたり、場面ごとのスイミーの気持ちを自分なりに明らかにさせたりするために、自分の経験などを理由として、場面ごとに感想を書かせる。その際、感想を豊かに表現させるために、感想に用いるとよい言葉をまとめた表を提示する。

イ 想像を広げながら読む能力をさらに高めるために、**体言止め**や**倒置法**、**比喩表現**などの**表現の工夫がある文章と、表現の工夫がない文章とを比較させ、両者の感じ方の違いからスイミーの行動の意味や気持ちについて考えさせる**。また、表現の工夫の効果子ども自身が感じ、その結果としてスイミーの気持ちを豊かに想像させることができるようにするために、両者を比較させる際は、音読を行わせたり、学び合いを行わせたりし、感じ方の違いを十分に話し合わせる。

ウ 学習したことに対する有用感や成就感を味わわせて今後の読みへとつなげるために、この学習で身に付けた国語の能力について振り返らせる。

3 目標

- (1) 物語を読んだ感想を書くことに関心をもち、レオ＝レオニの作品を読もうとすることができる。
- (2) 順序や言い切りの形で工夫された文章とそうでない文章と比較して、その感じ方の違いについて気づき、登場人物の気持ちを考えることができる。
- (3) 登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読み、感想を書くことができる。

4 指導計画（全 10 時間）

過程	思いを連続・発展させる心の高まり	学習課題・学習内容の構造・主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす②	<p>どんなお話かな。楽しみだな。</p> <p>読んだ感想をカードに書くのだな。どのように読めばいいのかな。</p> <p>「スイミー」の学習を通して、感想が変わるのかな。楽しみだな。</p>	<p>1～2 教材との出会い・試し作り・課題解決の見通し</p> <p>『スイミー』を読んで、かんそうカードを書こう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 『スイミー』を読み、感想カードのモデルを提示して、感想カードを記入し、交流させる。（試し作り） ・ 単元の目標を設定し、学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元や教材への興味・関心を高めさせるために、作者紹介をしたり、教師があらかじめ並行読書するための同じ作者の物語を用意して紹介したりする。 ○ 課題意識をもたせるために、感想カードの試し作りをさせ、うまくいったこととうまくいかなかったことから、学習課題を明確にさせる。 ○ スイミーの気持ちを想像するために、表現の工夫に着目させながら場面ごとに登場人物の行動や会話を中心に読ませたり、感想を書かせたりする。 ○ 感想をよりよく表現するために、気持ちを表す言葉を提示し、自分の思いに合った感想を書くことができるようにする。 ○ 見直しの感想カードに書く最も心に残った場面を考えさせるために、これまで書きためた場面ごとの感想カードを基に前時までの学習を振り返らせる。 ○ 自分の思いや考えが深まったことに気づき、学びのよさを実感させるために、試し作りの感想カードと見直しの感想カードを比較させ、変容を確かめさせる。 ○ 互いの思いを分かち合い、感じ方や考え方を認め合えるようにするために、友達の感想カードのよさについて考えさせたり、発表させたりする。 ○ レオ＝レオニ作品の感想カードを書くために、前時までの学習を感想カードを基に振り返らせる。 ○ 本単元の学習を価値付け、今後に生かすために、身に付けた力を振り返らせる。
しらべる⑤	<p>表現が工夫されているところを読むとさらにおもしろくなってきた。他の場面にもあるのかな。</p>	<p>レオ＝レオニの本を読んで、かんそうを書き、友だちにしようかいしよう。</p> <p>3～7 教材での学習（本時）</p> <p>「場めんごとに『スイミー』を読み、かんそうを書こう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 場面ごとに読み取る。 ・ スイミーの気持ち ・ 場面の様子 ・ 比喻や倒置法などの表現の工夫 ・ 場面ごとに、感想を書く。 	
ふかめる①	<p>友達の感想を見ると自分と違っておもしろいな。参考として、自分の感想カードに付け足そう。</p>	<p>8 試行（試し作り）の見直し</p> <p>「もう一ど、『スイミー』のかんそうを書き、友だちとつたえ合おう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 試し作りと見直しの感想カードを比較したり、感想を友達と交流したりする。 	
ふりかえる①	<p>学んだことを生かして、他の作品も読みたいな。</p> <p>お友達の感想カードに書いてある本を読みたくなったよ。</p>	<p>9 類似教材での学習</p> <p>「レオ＝レオニさくひんを読んで、かんそうを書こう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までに学習したことを生かして、感想カードを作成する。 	
いかす①	<p>レオ＝レオニの作品おもしろいな。もついろいろな物語を読んでみたい。読書っておもしろいな。</p>	<p>10 活用場面の想起</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この学習でどんな力が身に付いたか話し合い、今後の読書生活への意欲付けを行う。 ・ レオ＝レオニ作品の感想カードを交流し合う。 	

5 本時 (7/10)

(1) 目標

文の順序が入れ替わっている会話文や行動を表す文の表現に着目してスイミーの気持ちや魚たちの様子を想像し、大きな魚を追い出すことができたことに対する感想をまとめることができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時では、思考の高まりを目的とした学び合いが重要である。そこで、スイミーの気持ちを想像させるために、「スイミーは言った。『ぼくが目になろう。』』という叙述に着目させ、「スイミーは『ぼくが目になろう。』と言った。」という文と比べるとどちらが強い意志を感じるか考えさせたり、「『口』や『しっぽ』でもよいのか。」と問い、『目』になることの意味を話し合わせたりする。

(3) 実際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす	1 本時の学習課題を設定する。 (1) 前時の学習を振り返る。 (2) 音読し、学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> どうして、スイミーたちは、大きな魚を追い出すことができたのかな。 </div>	(分) 7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身に付ける国語の能力を意識させるために、前時までのスイミーの言動等の気に入った部分とその理由が書かれた感想を紹介する。 ○ 一人一人の課題意識を高めるために、「大きな魚を追い出した」ことに対するそれぞれの感想の違いから、全体で解決すべき課題を話し合わせる。 ○ 友達との学び合いを活発にし、自分の考えを深めたり、変容を実感させたりするために、直感の考えをノートに書かせる。
	2 直感の考えをもつ。 3 課題解決の見通しをもつ。 4 大きな魚を追い出すことができた理由について話し合う。		
しらべる・ふかめる	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> ひとりで考える 協力したから、大きな魚を追い出したんだよ。 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 友達の考えと比べる 「海でいちばん大きな魚のふりをして」というアイデアがよかったんだよ。文の順序からスイミーの自信も伝わるよ。 【表現の特徴】 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> みんなの考えと比べる 理由が分かったからやってみただけ、全然魚の動きに 見えないよ。スイミーが目になる必要があるね。【体験】 </div> </div>	28	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多面的な見方・考え方に気付かせるために、「同じ考えでも理由の違う友達がいたかな。」「自分の考えに付け加えたいことはなかったかな。」などと問い、自他の考えの共通点や相違点に気付かせる。 ○ スイミーのアイデアやみんなの協力だけでは大きな魚になれないことに気付かせるために、赤い魚のペーパーサートを用いて動作化させ、気付いたことや感じたことを発表させる。 ○ 新たな考えを見いださせるために、教材文と「スイミーは『ぼくが目になろう』と言った。」という文を比較させ、どちらが強い意志を感じるか問う。また、「目」になった理由を考えさせ、「口やしっぽではいけないか。」と問い、スイミーのリーダー性に気付かせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> スイミーはどうして「ぼくが目になろう。」と言ったのだろう。口やしっぽではなく、目になることに何か意味があるのかな。 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 「スイミーは『ぼくが目になろう。』と言った。」より、スイミーの強い気持ちが伝わるな。 【表現の特徴】 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 進む道を示したかったから、みんなのリーダーとして魚の中心の目になったのだね。【体験】 </div> </div>		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 交流した感想や気づきをまとめる スイミーは自分がリーダーとなって、みんなを引っ張って いこうという気持ちがあったし、他の魚たちも、そんなスイミーに協力したから、大きな魚を追い出したんだよ。 </div>		
ふりかえる・いかす	5 学習のまとめを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> スイミーのリーダーとしてのつよい気持ちやアイデア、みんなとのきょう力があったから。 </div>	10	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の言語活動である「感想」の材料とするために、本時の場面の中で心に残った文とその理由を感想カードに書かせる。 ○ 次時の学習への意欲を高めさせるために、友達との交流を通して新たな考えを発見したり、自分の考えの変容に気付いたりしたことを振り返らせる。
	6 本時の学習を振り返り、自分や友達のよかったところ、次時の学習について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 会話や行動の文の順序を比べて考えると、スイミーの気持ちがよく分かった。他の作品も同じように読んでみたいな。 </div>		



【スクリーンに映し出した大きな魚】



【ペープサートを用いた動作化】

(2) 考察

本単元では、単元全体を通した言語活動として、感想を書くことを設定し、導入時に試しの感想を書かせ、交流させた。このことから、どのように読めば、自分の思いのこもった感想を書けるのかという自己の課題をつかませることができた。また、毎時間、学習した場面における感想を書かせたことで、場面の様子について思ったこととその理由が、明確に表現できるようになった。さらに、終末の並行読書したレオ＝レオニ作品の感想交流においては、人物の行動について、思ったこととその理由を伝え、本の面白さを他者と共有し合う姿が見られ、国語の能力を高めることにつながった。

本時においては、教材「スイミー」の最後の場面で、小さな魚たちがなぜ大きな魚を追い出すことができたのか、スクリーンに大きな魚の映像を映し出すことで、全員に課題意識をもたせた。また、直感としてもった思いや考えとその理由を、登場人物の行動や会話の叙述と、自分、既習、他者、教材などとひとみ学習でつなぐ働きかけとして、ペープサートを用いた動作化を行い、「スイミーのアイデア」や「みんなの協力」だけでなく、「練習」や「スイミーのリーダー的な役割」について叙述と関連付けながら考えることができた。

8 研究の成果と課題

本研究を通して、次の成果と課題があった。

(1) 研究の成果

- 国語の能力と結び付いた言語活動を設定して問いを明確にさせ、単元全体で意識させながら学習を進めることで、子どもは、活発に思考し、自分の思いや考えを深めたり広げたりしていた。
- 自分の思いや考えを既習とつなぐための働きかけとして、子どもの思いや考えから課題を立てさせ、直感の思いや考えを確実にもたせることで、自他の思いや考えのずれに気付き、活発な思考を生み出す姿が見られた。

(2) 研究の課題

- 単元全体を言語活動で活発につなぐ一単位時間または数単位時間ごとの言語活動について、学習内容と学習過程の関連を考慮して設定する必要がある。
- 思考の過程を可視化するために、思いや考えを深めたり広げたりすることに影響した他者の思いや考えを確実に書けるような働きかけが必要である。

9 おわりに

本報告は、鹿児島大学教育学部附属小学校平成 28 年度研究紀要で発表した研究内等に基づき、国語科教育において研究をさらに発展させ、その研究成果をまとめたものである。

